

科目名	専門基礎分野				ディプロマ・ポリシー(DP)	DP1	
	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進				担当教員	専任教員	
	看護形態機能学Ⅰ (生きている)						
履修学年	1年	履修学期	前期	単位数	1	時間数	30
授業目標	1. 「生きている」ための、からだの機能を看護の視点で理解する 2. 恒常性維持のための物質の流通を担う機能を理解する 3. 恒常性維持のための調節機構を理解する 4. 「生きている」ことに必要な各からだの機能が障害された際の身体の変化を理解する						
回	学習内容				方法	担当教員	
1	1) 何故からだの仕組みと働きを学ぶのか 2) パフォーマンス課題の導入： 「生きている」ことに必要な各からだの機能が障害された際の身体の変化を理解する (1)生活行動からみたからだ・白地図				講義 演習	専任教員	
2	3) 内部環境の恒常性（内部環境と外部環境） (1) 個体を外界から区別する皮膚の特性				講義		
3 4	(2) 体液（膠質浸透圧、水分出納、電解質、pH）、体温				講義		
5 6	4) 恒常性維持のための物質の流通 （流通の媒体である血液の役割・流通路・流通の原動力・血圧）				講義		
7 8	5) 恒常性維持のための調節機構 神経性調節（受容器、中枢神経・末梢神経、自律神経）				講義		
9 10	6) 恒常性維持のための調節機構 液性調節（ホルモンの作用と分泌調節、ストレスと恒常性）				講義		
11 12	7) 息をする（呼吸運動、排気量・換気機能、ガス交換（血ガス））				講義		
13 14 15	8) パフォーマンス課題：まとめ・発表				演習		
評価規準 評価方法	演習・パフォーマンス課題・筆記試験100点評価						
テキストおよび 参考文献	看護形態機能学 第4版（日本看護協会出版会） 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院） 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学（医学書院）						
履修上の注意 点							